

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

開会年月日時刻	令和元年8月8日(木) 午後3時00分
閉会年月日時刻	令和元年8月8日(木) 午後5時05分
会議の場所	向井千秋記念子ども科学館 会議室
会議次第	
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 協議・調整事項</p> <p style="padding-left: 40px;">(1) 日本遺産「里沼(SATO-NUMA)」と郷土愛の醸成について</p> <p style="padding-left: 40px;">(2) 科学館プラネタリウムの運営について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>	

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>出席者</p>	<table> <tr> <td>館林市長</td> <td>須藤 和臣</td> </tr> <tr> <td>館林市教育委員会</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 教育長</td> <td>小野 定</td> </tr> <tr> <td> 教育長職務代理者</td> <td>金子 千秋</td> </tr> <tr> <td> 委員</td> <td>谷田川 敏幸</td> </tr> <tr> <td> 委員</td> <td>猪熊 妙子</td> </tr> <tr> <td> 委員</td> <td>大石 和彦</td> </tr> </table>	館林市長	須藤 和臣	館林市教育委員会		教育長	小野 定	教育長職務代理者	金子 千秋	委員	谷田川 敏幸	委員	猪熊 妙子	委員	大石 和彦																		
館林市長	須藤 和臣																																
館林市教育委員会																																	
教育長	小野 定																																
教育長職務代理者	金子 千秋																																
委員	谷田川 敏幸																																
委員	猪熊 妙子																																
委員	大石 和彦																																
<p>説明等の ため出席 した者</p>	<table> <tr> <td>(事務局)</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 政策企画部長</td> <td>栗原 誠</td> </tr> <tr> <td> 経済部長</td> <td>浅野 康彦</td> </tr> <tr> <td> 教育次長</td> <td>青木 伸行</td> </tr> <tr> <td> 秘書課長</td> <td>中村 豊</td> </tr> <tr> <td> 企画課長</td> <td>木村 和好</td> </tr> <tr> <td> つつじのまち観光課長</td> <td>高橋 一哲</td> </tr> <tr> <td> 教育総務課長兼学校給食センター所長</td> <td>鈴木 匡</td> </tr> <tr> <td> 生涯学習課長</td> <td>武井 邦晴</td> </tr> <tr> <td> 学校教育課長</td> <td>上村 哲也</td> </tr> <tr> <td> 文化振興課長</td> <td>戸叶 俊文</td> </tr> <tr> <td> スポーツ振興課長</td> <td>加藤 雅央</td> </tr> <tr> <td> 向井千秋記念子ども科学館長</td> <td>額田 繁正</td> </tr> <tr> <td> 図書館長</td> <td>石崎 治</td> </tr> <tr> <td> 総括係長</td> <td>折原 嘉和</td> </tr> <tr> <td> 書記</td> <td>打木 洋輔</td> </tr> </table>	(事務局)		政策企画部長	栗原 誠	経済部長	浅野 康彦	教育次長	青木 伸行	秘書課長	中村 豊	企画課長	木村 和好	つつじのまち観光課長	高橋 一哲	教育総務課長兼学校給食センター所長	鈴木 匡	生涯学習課長	武井 邦晴	学校教育課長	上村 哲也	文化振興課長	戸叶 俊文	スポーツ振興課長	加藤 雅央	向井千秋記念子ども科学館長	額田 繁正	図書館長	石崎 治	総括係長	折原 嘉和	書記	打木 洋輔
(事務局)																																	
政策企画部長	栗原 誠																																
経済部長	浅野 康彦																																
教育次長	青木 伸行																																
秘書課長	中村 豊																																
企画課長	木村 和好																																
つつじのまち観光課長	高橋 一哲																																
教育総務課長兼学校給食センター所長	鈴木 匡																																
生涯学習課長	武井 邦晴																																
学校教育課長	上村 哲也																																
文化振興課長	戸叶 俊文																																
スポーツ振興課長	加藤 雅央																																
向井千秋記念子ども科学館長	額田 繁正																																
図書館長	石崎 治																																
総括係長	折原 嘉和																																
書記	打木 洋輔																																

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

教育総務課長	定刻となりましたので、ただ今より令和元年度第1回館林市総合教育会議を開会します。会議に先立ち、資料の確認をお願いします。 (午後3時00分) (資料確認)
教育総務課長	それでは、お手元の次第に沿って進めてまいりたいと思います。はじめに、当会議の招集者であります須藤市長よりご挨拶をお願いいたします。
市長	皆さま、こんにちは。教育委員の皆さまをはじめ、関係者の皆さまには、大変お暑い中、またご多用の中、この会議にお集まりいただきまして、心から感謝を申し上げます。 昨日、8月7日には、館林市においては七夕まつりが行われました。また、先日は手筒花火大会、その前には館林まつりということで、天候にも恵まれまして、3つの大きなお祭りを無事に終えることができました。そこで感じましたことは、昨年以上に子どもたちや若い方々の参加が多く、こんなにも館林には子どもがいるのであろうか、恐らく市内外の多くのところからお越しいただいたのであろうと思いますが、その位、元気あふれる活発なイベントであったという印象を受けたところでございます。 さて、本日は、令和元年度の第1回目の総合教育会議でございます。平成27年度からこの会議が始まりまして、今回は7回目、私自身としては、就任してから5回目の会議になります。また、小野教育長が就任されて初めての会議でございます。市長と教育委員会が地域の課題や本市の教育の目指すべき姿を共有し、効果的に教育施策を推進するための会議でありまして、協議を通じて、相互の連携をより一層図ってまいりたいと考えております。 本日の議題は、まず、日本遺産、5月20日に認定されました「里沼(SATO-NUMA)」でございます。あわせて、郷土愛の醸成ということも議題とさせていただきます。二つ目の議題といたしま

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>教育総務課長</p>	<p>としては、向井千秋記念子ども科学館にございますプラネタリウムの運営について、議題として掲げさせていただきました。これらの議題は、皆さまの貴重なご意見をいただきながら重点的に進めてまいりたいと考えている案件でございます。教育委員の皆さまには、忌憚のないご意見をいただき、実りある会議となるよう、ご協力をお願い申しあげまして、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>ありがとうございました。それでは、会議に入りたいと思います。ここからは、館林市総合教育会議運営要綱第3条の規定に従いまして、須藤市長に議長を務めていただきたいと思います。市長、議事の進行をよろしくお願ひします。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、ご指名によりまして議長を務めさせていただきます。お手元の次第をご覧いただきたいと思います。3 協議・調整事項に入ります。はじめに、(1) 日本遺産「里沼 (SATO- NUMA)」と郷土愛の醸成についてを議題とします。こちらにつきましては、協議・調整事項とした理由を教育委員会の事務局からお話いただきたいと思います。では、教育次長、よろしくお願ひします。</p>
<p>教育次長</p>	<p>それでは、私の方から、日本遺産「里沼 (SATO- NUMA)」と郷土愛の醸成について、協議・調整事項とした理由を申しあげます。</p> <p>日本遺産制度につきましては、平成27年度に文化庁が創設した事業でありまして、地域の歴史的魅力や特色を通じて、わが国の文化や伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定するものであります。地域活性化や国内外から観光客を集客することを目的としまして、2020年東京オリンピック・パラリンピックまでに100件を認定するものでございます。</p> <p>本市の日本遺産認定ですが、今商標登録をする形で進んでおりまして、「里沼 (SATO- NUMA) - 祈り・実り・守りの沼が磨き上げた館林</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

の沼辺文化ー」のストーリーで、文化庁から、先ほど市長の話にもありましたように、5月20日に認定されたものであります。

認定後は、6月27日に日本遺産推進協議会を設立し、「里沼（SATO- NUMA）」の魅力を世界に発信しつつ、市民と一体となって、歴史文化の継承や人材育成、産業・観光振興に向けた様々な事業を推進すべく、作業を進めているところでございます。

さて、里沼という館林独自の沼辺文化を保存・活用し、日本遺産推進協議会が中心となりますが、その実働の組織としましてヌマベーション連絡協議会を核として、各分野の事業を担う組織、団体を横串で繋いで、各事業をさらに磨き上げ、地域の魅力を発信し、益々の交流人口拡大に向けた取り組みを進めていくべく、調整を進めているところでございますが、一方では、将来の館林を担う子どもたちへ、この文化をしっかりと継承すること、次の世代の人材を育成していくことも非常に大切な部分であると思っております。

本市教育委員会では、現在においても、「郷土」を扱った授業などを各小中学校で実施しておりますが、「里沼（SATO- NUMA）」の日本遺産認定を契機としまして、より一層、子どもたちの郷土への理解を深めてほしいと考えております。

そこで本日は、子どもたちが郷土愛を育んでいけるような取り組みについて、皆さまにご協議していただき、郷土愛の醸成に繋げてまいりたいと思ひまして、議題とさせていただきます。以上でございます。

市長

ありがとうございました。ただ今、事務局の議題提案の説明が終わりましたが、まずは、日本遺産「里沼（SATO- NUMA）」と郷土愛の醸成についてを議題としてよろしいでしょうか。

（委員より「はい」の声あり）

市長

ご了解をいただいたということで、確認をいたしました。それでは、

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

文化振興課長 学校教育課長	<p>続きまして、関連する資料が用意されておりますので、こちらの資料の説明から入りたいと思います。では、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(1) 日本遺産「里沼 (SATO-NUMA)」と郷土愛の醸成について (別紙資料(1)-1、2に基づき説明)</p>
市長	<p>ありがとうございました。郷土愛の醸成につきましては、市あるいは教育委員会や学校現場においても共通のキーワードとして大事なことであると思っております。</p> <p>日本遺産の認定に向け、つつじが岡公園の方の館林つつじサポーターズ倶楽部設立の際には、当初はつつじで目指そうということでありました。しかしながら、つつじでは日本遺産認定にならないであろうという判断のもとにもう一度見直して、館林の素材として沼があるのではないかということになり、沼をベースに考えると、全て館林のくらし、今日までの産業の発展、おもてなし、観光面等々、沼を分母としますとその他のことが全て分子になるということが、関係者を含め改めて理解することができたということです。</p> <p>ですから、みんなこのことが分かっている申請した訳ではなく、歴史を綴ってみると、一例ですけれども、「実りの沼」であれば、多々良沼というのは、そこに当然存在しておりますが、歴史を辿ると、そこに内陸の古砂丘という地形が大泉の方からずっと繋がっており、これは古代における利根川の流れの堤防であったということが理解することができましたし、多々良沼はそこに水が集まってくる、あるいは湧く場所としてある訳ですが、大谷休泊翁が約500年前に導水をするんですね。これが今の逆川ですし、旧休泊川が三野谷の新堀川となって館林の肥沃な大地を形成していく訳です。そして群馬のウクライナと称されるまでになり、そこで大豆、小麦、米が生産され、明治に入るとそれを原材料として正田醤油が起こり、正田家から館林製粉、日清製粉の前身が起こり、そしてその両家のご</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

尽力によって東武鉄道の館林駅が両本社の前に誘致される訳であります。そこから今日の麺文化が生まれてくることになります。

これは「実りの沼」の事例であって、「祈りの沼」「守りの沼」にも別のストーリーがあるのですが、こういったこと自体、今まで館林で暮らしてきた我々大人たち、あるいはこの館林のために尽くしている市の職員であっても改めて再認識させていただいたと思います。ですから、このことはやはり教育の中においても、学校現場において、改めて郷土愛ということをこれまでも伝えてはいるのですが、一つのストーリーとして日本遺産としてまとめることができましたので、この普及をしながら、館林の郷土愛の醸成、あるいは道徳学習、社会科学習に役立てていただけたらと思います。ぜひ委員の皆さんのご意見を賜りたいと思います。

市長

では、小野教育長、ご意見いかがでしょうか。

教育長

日本遺産ということで、認定されたことは非常に素晴らしいことであると思います。今、市長からお話がありましたように、沼という括りで館林というまちを掘り起こし、そしてそれを浮きだたせてきた、そういう意味では、本当に素晴らしいことであると思っています。

これを郷土愛に繋げていくことが今日のテーマになりますが、例えば、学校教育課からも話があったように、道徳等では心情を掘り起こすということは大切なことであると思いますが、私は、最終的にそういう心情から掘り起こしていったものが、例えば、子どもたちの中で一つの感性となって生まれてくるためには、やはり、頭で理解したことと、体験ということの結びつきというものが、とても重要であると感じております。そういった面で、自分も東京で一人暮らしをしていた時に、やはりふるさが浮かんできました。その時一番自分の中に浮かんでくるのは、子どもころ生活していた、遊んだ体験でした。そうしたことから、郷土愛を育んでいく取り掛か

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>りとして、学習はもちろん必要ですが、体験をどのようにして子どもたちにしてもらうのか、そういったところを掘り起こしながら徐々に繋げていければよいと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。次に、金子委員、いかがでしょうか。</p>
金子委員	<p>個人的には、里沼が日本遺産になったことは、非常に驚きました。館林を一言で紹介していただきとなった時には、どうしても頭の中には花山、つつじが岡公園が出てきますので、いいところを突いてくるなと思いました。</p> <p>そこで、里沼から子どもたちに郷土愛を持たせるにはどうしたらよいか私なりに考えてみたのですが、館林の歴史を勉強するのはもちろんですが、教育長がおっしゃったように、子どもたちが今いる場所で、地域の風を感じて、景色を見て、どんなことを感じ取るか、そしてその場所でどんな経験を積み重ねていくか、家族や友達、地域の方々とその様々な経験、楽しかったこと、辛かったことを共有できたか、その積み重ねが郷土愛に繋がっていくと思うので、里沼について、何かしら郷土愛を持たせる経験をさせるようなことを考えていけばいいと思いました。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。では、谷田川委員、いかがでしょうか。</p>
谷田川委員	<p>考えが漠然としていて、具体的に何をすればよいのか正直迷っています。総論では、まちづくりに関しても、今回の郷土愛に関してもいろいろな考え方があっていいと思うのですが、では具体的に何をしていくのか、認定される前から私もずっと考えているのですが、なかなか具体案がないというのが正直なところです。</p> <p>今回、子どもたちのことを考えますと、教育長がお話したように、机上論ではなくて現場というか、三つの沼や多くの神社仏閣などありますが、大人でも実際に行ったことがない人が多いと思いますの</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>で、そういったところを巡るツアーのようなものを行ったかどうかと思います。まずは、そこを知らないと何も語れないと思ひ、ぜひ、「ぼんちゃんと学ぼう 館林の歴史」などの冊子を使いながら、市民がどれだけ地域や現場に行ってみるか、まずはそこからであると思ひました。子どもたちについては、授業の中でそういったことをやらせてもらえればと思ひました。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。では、猪熊委員、お願いします。</p>
猪熊委員	<p>私も、三人の方がおっしゃったように、知識、理解の部分ではなくて、実感を伴うことで郷土愛は育つと思ひます。例えば、多々良沼であれば、今たくさんの方たちが魚釣りをしていますが、あそこで子どもたちが魚釣りできる安全なスペースが用意されていて、そこで魚を釣ってみたとか、そういう体験を小さい時からしていくことが多々良沼の良さになって、それが心に残っていくと思ひます。景色を見て美しいと思うのは大人であって、美しさからは子どもはなかなか郷土愛に繋がらないと思うので、体験活動と沼辺を上手く繋げられたら一番いいと思ひます。</p> <p>ただ、先ほど学校教育課長のお話がありましたように、授業時数の関係でいうと、なかなか踏み込むのは難しいと思ひます。そうすると、総合の時間で考えるのか、あるいはバス旅行のような形で行っている時間を親子学習の時間にして体験するなど、工夫していくことができればいいと思ひました。</p>
市長	<p>ありがとうございます。では、大石委員、お願いします。</p>
大石委員	<p>皆さん共通して、体験の場をどうしようかというお話であると思ひます。資料には、里山というのは人間の影響を受けた生態系が存在する山のことと記述がありますが、これを沼に当てはめると、里沼は、昔はいろいろなものに利用され、人間の影響を受けて、結果と</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

して今の景色に至っているものであると思います。時代の流れで、いろいろな恵みを受けていたものが、徐々に必要なくなってきた、非効率で今の生活にはそぐわなくなってきた部分もあるので、利用が段々なされなくなってきたという部分で、沼や景観を維持することは大変であると思います。

具体的にどうしたらよいかという点で、個人的な提案になりますが、沼の周辺の雑木林や竹やぶの整備といいますか、千代田町では、ボランティアや委託の形で里山の下草刈りなどを行っていると思うのですが、また、四中では四中の森ということで、林に手を入れていると思うのですが、そういったように実際に自分たちが手を入れて、その結果できた景観ということになれば、恐らく見方が変わり、愛着が湧き、結果的に郷土愛に繋がっていくものと思います。地権者の関係で難しいところもあるかと思いますが、一例としますと、鶴生田川から公園に入ってくるころのホテルの前に竹やぶがありまして、とてもうっそうとしていて、どうにか手を入れて、イメージとしては京都の竹やぶのような感じで、沼周りの手入れをして、子どもたちにも手を貸してもらって形で景観を作っていくということが、身近で、まちとして関わっているというアピールにもなると思いますので、そのような事を今回考えました。

市長 ありがとうございます。付け加えたい方はいらっしゃいますか。

教育長 よろしいでしょうか。

市長 はい、教育長。

教育長 私は学校教育にこだわるのではなくて、社会教育的な部分もあって、例えば子育連ですとか、各種文化団体ですとか、いろいろありますので、そういった人たちの力を借りながら子どもたちの体験の場を増やしていけたらいいと思います。

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

どんな体験をすれば面白いかな自分なりに考えてみますと、歴史、文化、自然を体感するアクティビティということで、例えば、オーソドックスなところから言えば、自然観察、沼辺の植物ですとか、水生動物や昆虫、そういった生態系を学ぶという学習が一つ。また、科学館などでもやっておりますが、沼と生きる野鳥の観察ですとか、鳥笛などを一緒に作っても面白いと思います。また、里山があるところでは、ネイチャーゲームなどもできると思います。落ち葉に埋もれてみたり、落ち葉で人の顔を作ってみたり、そういう発想もあると思います。他にも、先ほども出ていましたが、フィッシングですね。こういう経験を持たない子どもたちが体験をするもの面白いのかなと思います。

また、いろいろと環境を整えなくてはならないと思いますが、カヤック体験、キャンプ体験、それから、館林には「新日本歩く道100選」に選ばれているところもございますので、そういったところを通した健康ウォーキング、例えば、草木染の体験、館林紬で手作りの小物作り、昨日の七夕まつりでも試食させていただきましたが、とってもおいしかったので、なまずバーガー作りに挑戦、また、一般的なうどん作りやパンケーキや和菓子作りはあると思いますが、そこに付加価値を付けて、プロが教えるうどん作りとか、プロが教えるパンケーキ作りとか、プロが教える和菓子作りなどもできると思っております。

また、市内の名所、旧跡や風景画を描く、撮る、今の子どもたちは絵に描くだけではなくて、写真なども撮れる環境を持っていますので、そういうものを撮ってもらって、単に撮るだけではなくて、子どもたちの言葉なども添えてSNSで情報発信することも可能かと思っております。

こういうものは、やはり遊びという経験が、自分の中でも豊かになっていたという感覚がありまして、こういういろいろな遊びを経験する場を、学校教育の中でも、生活科という場面や総合的な学習という場面で与えてやれるかもしれませんし、また、学校以外の人た

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

猪熊委員

ちの持っているいろいろなノウハウを加えていただくことによって、遊びの場というものが広がると感じております。以上です。

その地域にある自然や物を利用した体験、遊びといったものが、子どもの郷土愛を育むベースになると思います。小さいうちにそういう体験を多くすることが大事であると思いますが、大人になってからでしたが、多々良沼の松林のところに土手がありますが、西側の日当たりのいいところに理科の先生が連れて行ってくださって、食べられる実などを教えてくれました。「ああ、これ食べられるんだ。」と気が付いて、大人でも少し嬉しかったのですが、こういうことも小さいうちに体験しておく、自分の住んでいるところにはこういうところがあるのだと、良さに繋げていけるものと思います。そうすると、地域の中でそういう知識のある方にお手伝いをいただくなど、地域の方と絡めながらやっていると、郷土愛のベースになるところが耕されるものと思います。

市長

ありがとうございました。教育長の方で大分まとめていただきましたところですが、私の方からも申しあげたいと思います。

委員の皆さんがおっしゃっていたことは、意外にも共通していたと思います。小野教育長からは、学習だけでなく体験も大事であり、体験の場の掘り起こしが大切である。社会教育など、大人の力を借りながら、具体的に先ほど沢山のメニューをおっしゃっていただきましたが、遊び感覚を含めて取り入れていけばよろしいのではないかと、ということでありました。金子委員からは、里沼でいろいろな経験を積み重ねていくことで、郷土愛が実ってくるのではないかと。谷田川委員からは、現場、沼を回るツアーなど作ったらいいのではないかと。猪熊委員からは、実感を伴うことが大事で、例えば、魚を釣ってみるなどの体験活動を通して郷土愛が育まれるのではないかと。それは、小さいころからの体験が良いのではないかと。大石委員からは、里山をヒントにして、里沼周辺の整備を自分たちの手で行

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

うことで郷土愛が育まれるのではないかと、ということでありました。ここで思い出すことがありまして、こちらの科学館の名誉館長であります向井千秋さんと2年ほど前にお話をしたときに、向井さんは、館林の恵まれた自然の中から多くを学んでほしいと子どもたちに伝えていただきたい、とおっしゃっていました。具体的には、姉妹でよく堰坂へ行っていたそうなのですが、ある時妹が川に落ちそうになって、柳に捕まって助けを求めていたら、大人が助けに来てくれて何とか助かったと、非常にそのことを思い出話としておっしゃっていました。そういうリスクは伴いますが、沼をはじめ自然から学んでほしいということをおっしゃってくれました。

実は、文化庁で日本遺産認定に向けた面接がありまして、5人で臨んだのですが、その際、いくつかの質問をいただきました。その一つに、大学の先生であったと思いますが、「最近子どもたちは水辺から離れてきています。このことについては、どのように捉えていらっしゃいますか。」という質問を受けました。それは私の方から答えさせていただいたのですが、「館林市は東京大学の先端研究所と提携してROCKETという異才発掘プロジェクトを行っております。それは、学校になかなか馴染めない子どもたちを対象としていますが、今年のテーマは、沼であります。沼をテーマに、東大が一つのプログラムを組んでいるのですが、私たち館林の子どもたちだけではなくて、このことに関心のある全国からの子どもたちも一部対象として参加していただくことになっています。そこでは、人と自然がお付き合いするその作法を学ぶ場を提供することができるのではないかと期待しています。」と答えをさせていただきました。そのことは非常に関心を寄せていただいたと思っております。

今、東大の方でも、フィールドワークということで、先日も「沼に潜む生き物の正体をあばけ」というテーマで、船に乗っていろいろな観察や体験をやったことと思いますが、いずれにせよ、体験するというのが、キーワードであると思います。具体的には、先ほど教育長がおっしゃった様々な自然観察、沼辺の植物観察、野鳥観察、

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

フィッシング、カヤック体験、キャンプ体験など、いろいろあると思います。そして、それを既にやっていたりしゃる団体があると思います。今後、日本遺産と絡めて沼辺に新しい顧客を創造する、ヌマベーション連絡協議会を立ち上げていくのですが、学校の先生方がプログラムを開発するのはなかなか難しい課題や時間的拘束もあると思いますので、そこでは、こういった団体の方々と館林の子どもたち、今持っている団体の方と学校あるいは先ほどの子育て連とかを結び付けることによって、連携することができると思います。

実際、恐らく学校では、それ程沼には行ってないと思います。私の経験は八小と多中で、多々良沼の近くでありましたが、学校教育の中で沼に行った経験は一度もありませんでした。野球部のランニングの時に沼一周というのはありましたが、それ以外は特にはありませんでした。ただし、イナゴを観察に行こうということで、松林の裏に行ってイナゴ獲りをした時に、湿地は一度見ましたけれども、リスクを伴いますから沼にはそれほど近づかないと思います。ですから、それを受け入れてくれる、案内してくれるプレーヤーの方々のところへ参画していくことが、現実的であると感じています。

課題と思っていますのは、子どもは遊び感覚がないと楽しめないと思うので、よそからももっと来てもらうためには、ボランティアの方々においても、もっとステージを上げていただいて、遊び感覚を取り入れていただくことがプログラムとして大事であると思います。今後、ヌマベーション連絡協議会では、そういった方々のステージが上がるように、取り組んで行かねばならないと思います。

教育長

郷土愛を育むということで、付け加えさせていただきたいと思います。郷土愛を育んだ子どもたちがどこへ行くのか、キャリア発達という視点で図を作ってみました。子どもたちが、今の自分がいろいろな経験を積むことによって将来ありたい自分をイメージして、そしてそこに向かって具体的な形で進んでいく。こういった中で、特に学校教育の中で大切と思っているのは、こうした子どもたちに感

性を育てることで、そしてその中で、いろいろな職場体験などの経験を積ませてあげることによって、それがボランティアとしての社会貢献という形で子どもたちの中に根付いてくれることであると思います。そのために、地域の歴史や文化、自然が関わってきて、そうした中で子どもたちが豊かに育まれることによって地域のために何か自分でできることを考えていく、ということを中学卒業するまでにさせてやりたいといつも思っています。

この辺のところは大石委員からもありましたが、自分が学校にいた時に子どもたちと一緒にやってきたことは、例えば、つつじが岡公園で、子房摘みの経験を子どもたちにしてもらいました。しかし、ただ単に体験で行って、やらせられて帰ってくるだけの子どもは、郷土に対する愛着は育ちにくかったです。つつじが岡の歴史の中で、400年という時間の中で、今も現存する公園の美しさ、そういったところを子どもたちに学んでもらう体験をしていくと、子どもたちが変わるんですね。子房摘みをやっているという意味を持ちながら体験できる、そういうことが繋がっていくことが、多分、点となっているところが線となり、面となっていくと思います。子房摘みをして、子どもたちがもう一度美しく咲いた公園に行くとそのつつじを見る、そこまでいくと自分がやった意味というのが生まれてくるものと思います。

例えば、多々良沼の赤松は随分枯れてきてしまいましたが、そういったところで植樹してみるとか、許されるのであれば、感情移入するために、その一本の苗木に自分の名前を付けてみる。それがやがて何年かして、ふるさとを離れていった子どもたちが戻ってきた時にでも、自分が植えた木がそこに残っていると、あるいはそういうものが転じて、多々良中学校は彫刻の小径をきれいにするボランティア活動を行っていますが、今度は子どもたちのレベルではなくて、補修、クリーニングするような技術などを一緒に学びながら、より美しくしていくとか、そういうことが繋がって初めて、子どもたちの中に郷土愛というものが醸成されていくと思います。ですの

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

市長
で、はじめに述べたのはアクティビティですが、それをどうにかして子どもたちの中で繋げいくというのが、学校教育の持っている一つの学校であることの所以であると思います。その辺も現場の先生たちと話し合いながら作っていかねばと考えております。

市長
まとめとしますと、皆さん共通した認識でありましたが、里沼、沼辺を利活用した、子どもたちが体験できるような、郷土愛を醸成できるようなプログラム、また、今いる方々がやってくさっている様々なことに接続していく、あるいは、それ以上のものを作っていく、こういうことが大事であると思います。

市長
郷土愛について教育長からお話がありましたが、市としますと、課題といたしますか、今、どの自治体も「持続可能なまちづくり」を掲げていますが、「持続可能なまち」とは、世代間できちんと引き継がれ、バトンタッチされていくまちのことであると思います。高齢者しかいないまちであれば、持続することは不可能です。当然、老若男女のバランスもあると思いますが、若い人たちにバトンタッチできる持続性、そのためには、やはり若い人たちに館林に住んでもらうことが大事です。里沼自体が魅力あるまちづくりの一つであると思いますが、里沼や郷土への愛着の形成が図られること、様々な体験により思い出が作られることというのは、館林の子どもたちや若い人たちとの接着剤となり得るものであると思います。また、そういうことができるまちということで、外からもいらっしゃることができると思います。こういったこと一つの軸としまして、里沼と郷土愛の醸成を結び付けていただければありがたいと思います。このようなまとめでよろしいでしょうか。

(委員より「異議なし」の声あり)

市長
異議なしということで、ありがとうございました。

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>市長</p>	<p>では、次のテーマに移りたいと思います。(2) 科学館プラネタリウムの運営についてを議題とします。はじめに、協議・調整事項とした理由を教育委員会の事務局からお話いただきたいと思います。では、教育次長、よろしくお願いします。</p>
<p>教育次長</p>	<p>それでは私の方から説明させていただきます。科学館につきましては、子どもたちの科学に関する知識の普及や啓発を図り、自主性と豊かな創造性を育てるために、平成3年度に開館し、以来多くの方に利用していただいております。現在も、趣向を凝らした展示や科学に関する各種講座を開催するとともに、平成30年度からはROCKET事業をスタートする等、様々な取り組みを通じて、一層、皆さまに親しまれる科学館を目指して、日々努力をしているところでございます。</p> <p>さて、ここで、当館にも設置しておりますプラネタリウムについて目を向けますと、全国的には、その利用者は横ばいか、もしくは減少傾向にありまして、観覧者や観覧料を少しでも増やすことが大きな課題となっております。本市におきましては、平成26年度のプラネタリウムリニューアル後、観覧者や観覧料はやや増加傾向にありますが、プラネタリウム運営に係る経費は、観覧料収入に対して乖離している状況でありまして、その圧縮が課題となっております。本日は、科学館プラネタリウムの現状をご確認いただいたうえで、様々な視点からどのような取り組みができるのか、観覧者や観覧料を少しでも増やす方策や運営方法などについてご意見を賜り、今後の運営の参考にさせていただきたいと思ひまして、議題とさせていただきました。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。ただ今、事務局から協議・調整事項とした理由について説明がありました。それでは、科学館プラネタリウムの運営についてを議題としてよろしいでしょうか。</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>市長</p> <p>向井千秋記念子ども科学館長</p>	<p>(委員より「はい」の声あり)</p> <p>ご了解をいただいたということで、確認をいたしました。では、関連する資料が用意されておりますので、こちらの資料の説明を事務局からお願いします。</p> <p>(2) 科学館プラネタリウムの運営について (別紙資料(2)に基づき説明)</p>
<p>市長</p>	<p>ただ今、事務局の説明が終わりました。資料を参考にしながら、皆さまからご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>では、今回は私の方からお話ししたいと思います。先日もプラネタリウムで「星の旅」という番組を拝見したばかりなのですが、非常に良い番組でした。当館のプラネタリウムは、群馬県の中では一番いいプラネタリウムでして、県内で最大のドームを持っています。次が、県の生涯学習センターにあるプラネタリウムですが、デジタル化にやっとした段階でして、規模とすれば、群馬ならず北関東の中でも、つくば市に次いで2番目になります。そしてデジタル設備でありますので、ハード面は実に優れたものであります。ただし、東京スカイツリーのところに、コニカミノルタが直営でやっているプラネタリウムがあるのですが、そこはコニカミノルタ自身が番組を作製していますので、良い番組がたくさんあります。私たちはその番組を購入していることとなりますが、コニカミノルタが今回、福岡で委託を受けているように、そういうところにやっていただくことも一つのテーマなのではないかと感じているところでございます。</p> <p>館林全体の観光を考えた時に、こちらは教育施設ではありますが、観光という視点を取り入れ、今日のような暑い夏の日には家族や団体等で花ハスのツアーに来ていただいておりますが、私たちはやはり</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>市内において、スポット的に行くだけではなくて、回遊していただきたいと思っています。そういった時に、夏と冬の館林の弱点は暑さと寒さでありますので、施設として冷暖房があるところで繋いでいくことが大事であると思います。このゾーンですと、当然のことながら、ここのプラネタリウム、科学館はポイントになると思います。もう一つは、アサヒ飲料(株)が「カルピス」みらいのミュージアムを作っていただきました。ここも夏や冬に強くオールシーズンで行けるようになります。後は、飲食店があれば全体の回遊性が出てくると思います。そういった意味において、プラネタリウムが充実しているということは、全体の回遊性の中でも拠点の一つになり得るのではないかと思います。そのようなことも踏まえまして、ご意見を賜ればと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>では、教育長からいかがでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>まず、質問があるのですが、先ほどの説明で、科学館の取り組みとして、アンケート結果を基に、投影の回数を、5回を6回に、投影の番組を、2番組から4番組にしたというお話がありました。現段階で結構ですが、成果は出ているのでしょうか。</p>
<p>向井千秋記念子ども科学館長</p>	<p>今上映している番組は、ドラえもん、星の旅、忍たま乱太郎、GRAVITATIONの4番組です。番組の知名度が高ければ、当然、観覧者数も多くなってきます。まだ始まったばかりなので、正確な分析はできていませんが、ドラえもんはお客さんがたくさん入っています。一回当たり平均で60人位入っていると思われれます。星の旅は少し苦戦している印象です。良い番組を揃えとともに、他の工夫も必要ではないかと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>去年、私も関わらせていただいているなかで、やはり科学館というと、大人だけで来るよりも親子連れでいらっしゃる方が多く、どち</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>らかというニーズは子ども番組にあると思います。親子連れで毎年同じような方々に来ていただいていると考えれば、大人の番組に対して、どういう風にプラネタリウムに入っただくのか考えることが、増やすための一つの戦略であると思います。その辺はいかがでしょうか。</p>
向井千秋記念子ども科学館長	<p>プラネタリウムだけを見に来るお客様は少ないと思いますので、入館者数自体を増やしていかないと、観覧者数は増えてこないと思われる。入館者のうちプラネタリウムをご覧になる方は、5年平均しますと、40パーセント位しかいませんでした。今後これをどう増やしていくのが課題になってくると思われまますので、プラネタリウムが見たくなるように、例えば、入館してすぐのところプラネタリウムのPRを流す取り組みを始めているところです。夏休みに入ってから、入館者に対する観覧者の割合は、今のところ50パーセントを超えています。これをもう少し増やせるようなことを考えていかねばならないと思います。</p>
教育長	<p>去年自分も関わらせていただいた中で考えていたことは、科学館にはいろいろな団体が入りますが、いらっしゃるのは1年間を通して1回だけなんですよね。ですので、2回来ていただくためにはどうしたらよいか、というところが一つポイントに挙げられると思います。そうすると、展示だけで、どちらかという子どもを対象にした展示が主で、大人向けになっていくと2階の3室4室になりますが、なかなかそこだけでは来ていただくのは難しい状況かなと思います。今後いろいろな検討が必要ですが、展示と一緒に料金体系を場合によっては見直して、プラネタリウムだけでしたら、もしかしたら2回来ていただける人も出てくるかと思えます。去年、受付をしていて、「プラネタリウムだけ見たいのですが、展示のお金も払う必要があるのですか。」と聞かれまして、「すいません。入館していただいたうえで、プラネタリウムに入っただかない</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>となりません。」とご了解をいただいたこともありました。場合によっては、プラネタリウムの入館と一緒に展示を見ていただく場合には、プラネタリウムや展示だけで入っていただく方よりも合計で料金を少し割安にする設定など、先ほど市長がおっしゃった回遊性という点でプラネタリウムは強みですので、そういう工夫をすることも必要と思います。</p>
<p>市長</p>	<p>事務局から、コメントはありますか。</p>
<p>向井千秋記念子ども科学館長</p>	<p>教育長からは、昨年度からいろいろと意見を承っております。そういったことも踏まえて、検討を進めていかねばならないと考えております。先ほども申しあげましたが、プラネタリウムだけということではなくて、いろいろな事業も充実させていかねばならないと考えています。また、セット料金につきましても、まだ検討された経緯はないようですが、回遊性ということも考えますと科学館だけではなく周りの施設も含めまして、考えていかななくてはならないと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。では、猪熊委員、いかがですか。</p>
<p>猪熊委員</p>	<p>2年ほど前になりますが、番組が新しくなるということで、見せていただいたことがあります。その時はディズニーの映画を見ているようでとても楽しくて、孫を連れて見に来たいと思いました。館林市は映画館もありませんので、画面の美しさなどを活かして、子どもが見たいと思わせる番組を、お金はかかってしまうのかもしれませんが、その辺のところを工夫していくと、季節に合わせて、もう一回見てみようかなという気持ちになって、リピーターができてくるのかなと思いました。</p>
<p>市長</p>	<p>今のご意見に対して、館長はいかがですか。</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>向井千秋記念子ども科学館長</p>	<p>確かに、番組によってはリピートでしたり、遠方からでもわざわざ足を運んでいただいたりすることは、実際あります。ただし、言い訳になってしまうかもしれませんが、そういった番組は値段が高額になります。プラネタリウムの番組については、委託料として支出をしていますが、その80パーセントは投影の権利料となっております。ですので、例えば、ドラえもんやディズニーのものとなると、権利料も高くなってきますので、その分お客様が増えるようにPRなどはしなくてはならないと思いますが、そういった現状もございます。その結果が、先ほど資料でご覧いただいたグラフでの点線と実線の乖離に繋がってしまう一つの原因ではないかと思われます。以上です。</p>
<p>谷田川委員</p>	<p>先ほどセット料金という話がありましたが、プラネタリウムの観覧料を少し上げて入館料も含まれています、一本にしてしまします、ということにしたらいかがでしょうか。</p> <p>また、市長がおっしゃった北関東で2番目の規模ということは、すいませんが初めて知りました。市民も知らないと思います。やはり、科学館という売りではなくて、プラネタリウム、館林にはこんなプラネタリウムがあるということをもっとPRした方がいいと思いました。平成26年度にリニューアルして、そんなにいいものになっているのであれば、プラネタリウムをもっとPRしたらどうかと思います。それともう一つ、投影開始時刻は15:50が最後となっているようですが、それ以降にはやらないのですか。</p>
<p>向井千秋記念子ども科学館長</p>	<p>15:50が、5回投影の場合の最終投影開始時刻になります。</p>
<p>谷田川委員</p>	<p>私思うのですが、カップルなどが夜に楽しむことができるようになればいいと思います。市の施設ですからいろいろな制約があると思いますが、せっかくこのように素晴らしいプラネタリウムがあるの</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>市長</p>	<p>ですから、夜の6時、7時位から映画をやって、その後お食事して帰れば回遊性も出てくるのかなと思いました。そしてそういうことがお客さんに知れ渡っていけば、平日にやっても夜であればデートがてらプラネタリウムに寄ってもらえると思いますし、これまでと視点を変えてみたらどうかと思いました。以上です。</p>
<p>金子委員</p>	<p>ありがとうございます。金子委員、いかがですか。</p>
<p>金子委員</p>	<p>谷田川委員がおっしゃったことを私も思っていました。7月、8月やクリスマスなどに、若いカップルになるべく来ていただけるような方策をとっていただけたらと思います。</p> <p>一つお聞きしたいのですが、市外の学校にはどんな働きかけをしているのか教えていただけますか。</p>
<p>向井千秋記念子ども科学館長</p>	<p>市外の学校などには、年間で4回、プリントを作って、近隣の小学校、幼稚園、保育園に送っています。アンケート結果を見ますと、ネットよりも、チラシを見て来たという方や、ロコミで科学館に来ましたという方がまだまだ多い状況です。ですので、今現在もチラシでのPRを各学校などに行っています。</p>
<p>金子委員</p>	<p>星座など、もっと授業の中でも取り入れてもらえるような時間を持っていただけたらと思います。また、育成会などの団体に働きかけて、夜の時間を調整してでもいいから、お友達をできるだけ呼べるような方策が取れば良いと思いました。</p>
<p>市長</p>	<p>猪熊委員、いかがですか。</p>
<p>猪熊委員</p>	<p>私、星空を見て、ぱっと分かるのがオリオン座だけなのですが、プラネタリウムをこの前見せていただいたときに、館林の景色を基にして、星がこうなっていますと示していただいて感心したのですが、</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

家に帰ってから見てみると、線が結べないんですね。星空を見て、星がきれいだなと思うだけではなくて、そこに何座があるということが分かるようになると、楽しくなると思います。プラネタリウムで見たものが実際の場面で分かるようになる手助けになるもの、ポイントになるものがただで、それを見てこれが何々座なんだと、実感できるようになると、秋になったらどうなるかとか、冬はどうかとか、そういう意識になると思います。大人がそうになると、子どもにあれが何座だよと教えられるようになり、子どもも関心を持つようになり、小学校の理科の授業の中だけではとてもそこまで関心を持たせるのは難しいと思いますので、見た後に実際に使える何かをいただけると、また行ってみようとなるのではないかと私は思いました。

市長

他に何かありますか。

大石委員

先ほどの説明の中で、直営で成功している事例の分析をするということをお願いいただきました。できること、できないことがあると思いますが、どういうことをして集客が上がってきたのか分析してほしいと思います。

それと、先ほど市長のお話がありましたが、プラネタリウムという施設に関して、委託という形で、運営をペイラインにもっていくということも視野に入れて、後は市のスタンスが、費用対効果でいうところのどの水準を考えているのか、プラスマイナスゼロか、できればプラスがあった方がいいのだと思いますが、そういうところを目指していくのか、あるいは行政サービスというところである程度のマイナスはやむを得ないのか、どの位のところで許容していくのか、プラネタリウムではありませんが市民プールの入場料と委託などの差を考え、その辺のところの幅をどう捉えて運営していこうか、ということであると思います。まずは成功しているところを分析していただいて、できることをどんどんやって、収益を上げていって

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>市長</p>	<p>いただけたらと思いました。以上です。</p> <p>市の考えということで、私の方からも委託のことについて触れさせていただきたいと思いますが、収益のことだけであれば、やらなければゼロなのですが、圧縮したいということだけではなくて、最低ラインは、今でも赤字でありますので、税金をかなり投入している訳でありますから、今の赤字の部分までは許容範囲ではないかと思えます。ちなみに今の赤字はいくら位に算定できるか、話しできますか。</p>
<p>向井千秋記念子ども科学館長</p>	<p>分かりやすく話しますと、プラネタリウムの番組の委託料が、年間で約1千400万円かかっております。それに対しまして、観覧料は700万円ほどでございます。その他、機器のリース料ですとか、メンテナンス費用がかかりますので、プラネタリウム合計の経費としましては、年間3千700万円ほどになり、年間3千万円位は赤字になっていると考えられます。</p>
<p>市長</p>	<p>ちなみにその3千万円が赤字であったとしても、いわゆる3千万円で、諸々含めて委託をすることができるとしますと、その中で番組数が、今は2から4か5になってきていますが、しかしたくさん番組を持っていらっしゃるでしょうから、もっと充実する。さらには、先ほどのように夜もやっていただける。福岡の場合には、本当は5時か6時までだったそうなのですが、先方から9時までやらせてほしいと申し出があって、9時までやるようになったそうです。ですから、中身がより充実してくれるのであれば、3千万円以上になってきますと我々も説明責任が果たしにくいと思いますが、例えば委託料が3千万円以内に収まって、もっと安くなればいいですけども、そこが一つの基準であると思えます。本当は事務局がもっといろいろなところを調べていると思いますが、私たちの機材はコニカミノルタのデジタルの型でありまして、数年前に変えたばかりです。</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>他のところはまだアナログが多いのですが、こちらはデジタルになっていまして、コニカミノルタの番組が一番合うものと思います。福岡は、直営ではなく、こちらも子どもの科学館のようなところであると思いますが、リニューアルの際にプラネタリウムだけコニカミノルタが委託を受けたそうです。都市の規模が違いますが、もともと想定した計画値は25万人でしたが、実際は29年度に72万人、次には115万人になったということです。我々もピークが4万人ほどで今は2万5千人ほどに落ちてきている訳ですが、もし、コニカミノルタに、番組作成等でお付き合いもある訳ですから、やってくれる可能性があるかどうか、一度聞いてみてもいいのではないかと思います。そしてやってくれるのであればどれ位の費用で委託を受けてくれるのか、その辺をこの機会に調査してもいいのではないかと思います。どうでしょうか。</p>
<p>谷田川委員</p>	<p>福岡の事例はどんな状況なのですか。</p>
<p>向井千秋記念子ども科学館長</p>	<p>福岡の科学館は、平成29年10月にリニューアルオープンしました。別の場所に移ってのリニューアルオープンでした。リニューアルに当たりJRの複合施設の中の一 corner に建設されました。そのうちプラネタリウムについては、建設当初からPFI方式でコニカミノルタが関わっております。その後継続して、プラネタリウムの管理のみを、指定管理者としてコニカミノルタが行っています。</p>
<p>谷田川委員</p>	<p>プラネタリウムをリニューアルする前と後で、PR方法などあると思いますが、どういう手法でコニカミノルタが入館者を伸ばせたのか、その点をお聞きしたいと思います。</p>
<p>向井千秋記念子ども科学館長</p>	<p>まずは、投影の回数が、当館は800回位なのに対して、福岡は1千何百回と行っております。それは、先ほど市長からの話にあったように、夜の投影を毎日のように行っていることによるものである</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>と思います。また、1投影に当たりの観覧者数で、100人を超えるお客さんが集まっております。人気のある番組を投影しているものと思われます。当館では学習的な番組だけが投影されておりますが、コニカミノルタがスカイツリーのところでやっている直営の館では、そういったものではない投影も行っていて、いろいろな番組を取り揃えることによって、1投影に当たりの観覧者数が増えているのではないかと考えられます。プラネタリウムの席数自体は、福岡は220席、当館は240席です。人口規模が違いますので、単純に比較はできませんが、プログラムの幅、ジャンルの見直しや、営業時間の見直しなどを考えれば、黒字化は分かりませんが、少なくとも差額を少しでも埋めることに繋げていけると考えられます。</p>
<p>谷田川委員</p>	<p>業務の委託は手っ取り早い話と思いますが、福岡などのいろいろな成功事例を取り入れて、実際にやってみてはどうかと思います。委託についての調査も必要ですが、それはそれで、そういう動きをしながら様子を見てもいいかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>福岡の事例を参考にして、我々も工夫、改善をしながら、あるいは一方で調査もしながらやっていこうということですかね。</p>
<p>谷田川委員</p>	<p>正直、平日はあまり集客を望めないと思います。そうすると、大人の時間、夜を上手く利用するのがいいと思いました。24時間ある中で、何回資産を使うかということになってくるとと思います。機材のランニングコストは同じ位でしょうから、それをいかに長い時間活用できるか、極端に言えば24時間稼働できた方が一番いいと思いますし、営業時間を長くして、大人に喜んでもらえるようにして、夜に楽しんでもらって、夕方、市内で食事してもらおうとか、そういうことを考えたら楽しいかなと思います。館林に行けばプラネタリウムが見られるよと彼女に誘われれば、彼氏は絶対に付いていくと思います。</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

市長

そうしましたら、二つに分けて考えたいのですが、一つは、先進的な福岡市を事例として、コニカミノルタに委託をした場合の調査を進めること、もう一つは、本日いただいた様々な工夫、改善などのご意見を検討して反映させていくこと、このようなことが必要であると思います。

皆さまから出たお話の中で、小野教育長の方から、プラネタリウムのセット料金の検討も必要ではないか、理由とすると科学館の方には一回しか来ないかもしれないけれども、プラネタリウムの方にはリピーターがいるかもしれない、そうするとそのプラネタリウムを別の単独の料金で検討してみることはどうかと。館長からは、それは今まで検討したことがないということでしたので、入口をどうするかなどがあると思いますが、これは一つ検討事項ですね。

そして、それに伴い館長からは、入館者のうち観覧にいらっしゃる方は40パーセント、夏休みは50パーセントいるということでしたので、やはり入館者数の全体のパイを広げていくことが大事であるとのご意見をいただきました。これは実態だと思えます。

それに対し金子委員からは、市内外の学校等によくPRをしてほしいというお話がございました。館長からは近隣の幼稚園等にはチラシを出していると、SNSよりもそちらの方が有効であるとのお話もいただきました。これは大事なことであると思えます。

市長

ちなみに近隣の学校、幼稚園というのはどの辺までのエリアなのですか。

向井千秋記念子ども科学館長

まずは邑楽郡内、栃木県、埼玉県、茨城県で館林市に近い周辺の市町の学校や幼稚園にチラシを配っています。

市長

群馬県内が邑楽郡内だけというのはもったいないですね。

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

谷田川委員	思ったのですが、映画館は千円以上すると思うのですが、夜に投影するのであれば、もっと高くてもいいのではないかと思います。そういう人たちは540円で映画は見られないので、夜の部は大人向けの番組をやって、夜間料金を取って、そこには入館料も含まれているから、映画まで少し時間があるようであれば映画が始まるまで1階や2階の展示を見学する、というのでもいいと思いました。
市長	値段設定のことも要検討ということですね。ここでもう一度確認したいのですが、近隣には何通くらいチラシを出しているのですか。
向井千秋記念子ども科学館長	小学校だけで1回当たり5万3千通出しております。
市長	そうすると大体、修学旅行等で使ってくださいというイメージですかね。
向井千秋記念子ども科学館長	学習投影という番組もありますので、もちろん通常のパネル、リストを見ていただいても結構なのですが、そういったものも含めてPRをさせていただいております。
谷田川委員	5万3千通出して実際はどれくらい来ているのですか。
向井千秋記念子ども科学館長	市外の学校からは、概数ですが3千500人ほどの来館があります。校数にしますと280校くらいになります。
市長	5万3千人の児童分のチラシを出しているということは、修学旅行ということではなくて、個人個人に渡していただくということなのですね。
向井千秋記念子ども科学館長	それもありますし、クラス単位、学年単位で来る場合もありますし、それは様々であります。

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

市長	<p>そこは営業戦略として、P D C Aサイクルに基づいてチェックすることは大事であると思います。</p> <p>もう一つは、谷田川委員がおっしゃったように、向井千秋記念子ども科学館の中のプラネタリウムということで、ここにプラネタリウムがあることが意外と分からない。プラネタリウムがあることを知らない。こういうことがあると思います。ですので、プラネタリウム自体をネーミングライツにして、名前を独立させてしまうことも一つの手であると思います。</p>
市長	<p>政策企画部長、今の件についてはどうですか。</p>
政策企画部長	<p>ネーミングライツということになれば、良い財源になると思います。</p>
市長	<p>いいアイデアが出ましたね。当然、向井千秋記念子ども科学館は存在する訳ですけれども、プラネタリウム自体に名前がないから、企業様のネーミングを付けて売り出してしまう、そうすると新たにマスコミも取材してくれて無料で広報ができる、これはいいと思いますが、教育長いかがですか。</p>
教育長	<p>素晴らしいと思います。</p>
市長	<p>素晴らしいというお言葉をいただきました。一つの方向性として検討していただくということによろしいでしょうか。</p> <p>もう一つは、先日見て感じたことは、番組の前半に星座の学習の時間がありましたが、ここは教育施設ですので学習という部分が必要であると思いますが、意外と居眠りしやすいのも事実です。これも皆さん一度見ていただいて、番組の構成上どうしても必要であればやむを得ないですが、後半の番組から、時間が短くなりますが、ダイレクトに入ってみることも検討してもよいのではないでしょう</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>か。</p> <p>それから、委員からオリオン座しか分からないというお話がありましたが、科学館には天文台があって観察学習会もありますから、ぜひそういった方を招待して星座の勉強をしていただけたらと思います。</p>
市長	<p>ちなみに、皆さん天文台に行かれたことはありますか。</p> <p>(委員より「ありません」という声あり)</p>
市長	<p>ちょっと今日寄ってみてください。科学館にはプラネタリウムとは別に天文台もあります。こちら県内には、高山の県の天文台と、ここと、倉淵村など三つ位しかないかも知れません。高山村の天文台は、なぜ県が作ったかといいますと、小寺知事の時に向井千秋さんが宇宙へ行ったことを記念して作ったんですね。知らないですよ。去年の夏、火星が近づくといった時に行ったのですが、向こうは大行列が並んでいました。その時は天文台でこんなに並ぶのかと思ったほどでした。館林市の市民の皆さんは市内に天文台があることを知らないと思いますので、こちらネーミングライツになりませんか。</p> <p>(委員より「稼ぎましょう」という声あり)</p>
市長	<p>そんなところで、時間も経過しましたのでまとめとさせていただきますと思います。様々な意見が出ましたので、事務方としてもご検討していただけたらありがたいと思います。以上でございます。</p>
教育総務課長	<p>長時間にわたり、大変ありがとうございました。次第の4に「その他」とあります。お時間も残りわずかですが、何かこの場でお話ししておきたいことがある方いらっしゃいますか。</p>

令和元年度第1回館林市総合教育会議議事録

教育総務課長	<p>(委員より「なし」という声あり)</p> <p>以上をもちまして、総合教育会議の全日程を終了いたします。大変お疲れ様でした。ありがとうございました。</p> <p>(午後5時05分)</p>
--------	--